

なほ

9月号
vol. 079

特集：都市のインフラ

子育て
居住
場所

vol.02



リ+なほ+ワーク

「西成で働くママたち」

特集..都市のインフラ



Photo: 仲川あい・三上真奈美・一ノ瀬武留



岸里学童保育所

働くお父さん・お母さんたちの「安心して働き続けたい」「子どもひとりではなく、仲間と一緒に放課後を過ごして欲しい」という願いから生まれた、放課後のおうちです。アットホームな雰囲気で1年生～6年生の子どもたちが助け合い、支えあいながら、生活する、「ホッとする暖かい居場所」として運営されています。
(場所: 岸里 3-3-17-202)

こどもの里

1977年、釜ヶ崎の子どもたちに健全で自由な遊び場を提供したいとの思いから、学童保育所「子どもの広場」としてスタート。現在は、誰でも利用できる子どもたちの遊び場として、大阪市子どもの家事業、小規模住居型児童養育事業、緊急一時宿泊所として運営されています。遊び場だけでなく、いろんな相談や食事や宿泊などに対応するなど、生活のいろんな場面で子どもと保護者を受けとめています。
(場所: 萩之茶屋 2-3-24)

今池こどもの家

1976年より、あいりん地域の子どもたちに健全な遊びの場、生活の場、居場所として、住民の運動によって誕生。現在は、0歳から18歳までの子どもたち、またその保護者が自由に利用できる施設として運営されています。特に、中高生の子どもたちが多いのが特徴です。
(場所: 天下茶屋北 1-4-6)

【シンポジウム概要】

第2回子育て・子育てシンポジウム
—官民協働でつくる西成区の子どもの居場所—
主催: わが町にしなり子育てネット
日時: 2013年7月5日
会場: 西成区役所

<プログラム>

第一部: 講演「子どもにやさしいまちづくり」
西野博之さん
(NPO法人フリースペースたまりば理事長)

第二部: パネルディスカッション
「官民協働でつくる西成区の子どもの居場所」
(パネリスト)
臣永止廣さん (西成区長)
荘保共子さん
(こどもの里・わが町にしなり子育てネット 代表)
西野伸一さん
(わかくさ保育園・にしなりあそびパーク☆ project)
松本直央さん (岸里学童保育所)

※今回、取り上げる施設・団体は、シンポジウムでの報告を中心に構成しております。なお、その他の西成区における子ども関連の施設などは、西成区広報誌「にしなり我が町 2013年7月号 (no.206)」などを参照ください。
<http://www.city.osaka.lg.jp/nishinari/category/2397-0-0-0-0.html>

先日、地藏盆に行くと、子どもたちが「次は、こっちだ!」とお菓子を手に他の地域の地藏へと駆けていく姿が飛び込んできました。次から次に来る子どもたちを見てみると、このへんのことをよく知っているなどつくづく実感。また、子どもたちの遊ぶ姿は、公園でゲームをしたり、商店街を走り抜けていく光景など、いろんなところで見られます。他にもイベントや施設など、そんな子どもたちが行き交う場所、よく知っている場所、遊ぶ場所が、このまちにどれほどあるでしょうか。

今年の7月に開かれた西成で考える子育て・子育てのシンポジウムでは、「子どもたちの居場所」がテーマでした。そこでは、西成での様々な取り組みを中心に、子どもたちが楽しみ育っている地域の居場所づくりのヒントが多く出されました。子どもたちの元気な姿があちこちで見られるまちは、どんなまちなのか? そんな一つひとつの子どもたちの居場所を今回は特集していきます。

放課後の遊び場

子どもたちにとって普段の居場所はどこなのでしょう？たとえば家、そして学校など思いつきます。しかし、家と学校をただ行き来するだけでなく、そのあいだ、つまり放課後も大切な時間です。ぼくが子どものころに暮らしていたところには田んぼも川も裏山もあつたので、寄り道しながら帰るのは日常でした。しかし、ここ西成のように都市部ではなかなかそのイメージがわかないのも事実。また最近では、防犯といった観点からも、寄り道しない登下校が大人たちには常識になっているのではないのでしょうか。では、いま子どもたちが放課後を遊び過ごす居場所とはどのようなところなのか、その現場を見ていきます。

まず、西成には放課後を過ごすいろいろな施設や事業があります。児童いきいき放課後事業（いきいき事業）や留守家庭児童対策事業（学童）、子どもの家事事業や子ども・子育てプラザ、市民交流センター、あいりん児童健全育成

事業など、目的・内容に沿っていくつかの場が提供されています。

たとえば、いきいき事業は各小中学校で「放課後の遊び場」を提供する事業です。校区内の児童を対象に、スポーツやゲーム、創作学習などを通じて、健全育成を図る事業とされています。しかし、学校が苦手な子どもにとっては利用しづらい事業かもしれません。また、学校という場所だけで放課後を過ごすということの限界もあるでしょう。現在は大阪市教育振興公社が運営していますが、平成25年12月からは、各地域の実情に合わせて公募で決まった団体が運営することとなっており、より柔軟な対応が期待されます。

第三のおうち

いきいき事業は各小中学校を舞台にした事業で、その点では身近に感じられます。しかし、雰囲気という点では、ずっと同じ学校というよりも、また違った環境に触れることも重要なことではないでしょうか。目的・対象は違いますが、学童

は「放課後のおうち」をコンセプトに、アットホームな雰囲気です。

守家庭の小学生たちがほっとできる居場所になっています。利用時間もいきいき事業より長く、おやつや宿題、遊びに食事など生活の場として子どもたちを日々見守っています。ちなみに、西成には「岸里学童」と「青空学童」があります。

このように子どもたちの日常を通じて、悩みや困りごとなどによりそっていく点も特徴的です。たとえば、ありのままの自分でいいんだと思えない、自信を持っていない子どもが増えてきているとのこと。「岸里学童」では、遊びや学びなどでの成功体験を通じて、自信を回復していくひと工夫など、一人ひとりを大切にしている取り組みがなされています。また、学童の保護者全員が運営主体となり利用料などを集め、共同運営していく点も他とは異なる点です。このように保護者の主体性を大切にしながら、喜びや悩みなども共感しあう場となっています。子どもを育てるだけでなく子どもとともに育ちあう、「子育て・

多様な居場所

「子育て」の現場になっています。

大阪市には、子どもの家事業と呼ばれる地域の子どもの遊び場・活動拠点として、健全育成を図る事業があります。西成では「こどもの里」と「山王こどもセンター」の2カ所で運営。子どもの家事業は学童とも違い、留守家庭の小学生に限定せず、いきいき事業のように学校の延長のような事業でもなく、幅広く柔軟に子どもたちを受け入れています。利用者は0歳から18歳そして無料。障がいをもつ子どもや、保護者の依存症や経済的困窮といった生活課題のある家庭など、様々な困難を抱えた子どもたちも多く集います。そんな相談できる場、駆け込むことのできる場、安心できる場として、いろいろな子どもたちが過ごす居場所となつていきます。これら多様な居場所になっているのは、日々の遊びや生活の場として開かれており、さらに「子ども夜回り」や「スタディツアー」などの地域や社会に触れ

るオリジナルな取り組みが積み重ねられているからだと考えます。

しかし、大阪市は留守家庭児童対策事業に一本化するとしており、多様な子どもたち、保護者たちを柔軟に受けとめてきた個性的な居場所を平準化する流れには疑問を感じます。家でもない、学校でもない、第三のおうちとなるような居場所は、子どもたちにとって大切なものだと思います。

子どもたちのいろいろな経験

地域課題・社会課題によりそうかたちで始まった「岸里学童」や「こどもの里」。そんな取り組みのうちひとつに、あいりん児童健全育成事業によって運営されている「今池こどもの家」があります。地域の貧困などの課題に対してつくられた事業で、0歳から18歳の子どものみならずだれでも通える居場所となつていきます。実際、子どもたちが遊ぶ様子は「こやまぜ劇場。いろいろな思いや考え、そのときの感情などが飛び交いぶつかり合い、常に動き

回つていきます。この光景は、「こどもの里」や「岸里学童」などにも通じるところ。子どもたち一人ひとりを大切に接しながら、みんなが遊べる居場所を生み出しています。そして、遊びの中で「プロ」に触れる、ということも子どもたちの貴重な経験にもなります。たとえば「今池こどもの家」では、世界で活躍する音楽家の大友良英氏のワークショップなどにも挑戦しています。演奏の経験やうまいへたではなく、子どもたちが思いおもいに音を出し、その一瞬限りのアンサンブルを奏でる「集団即興オーケストラ」をつくるワークショップ（※）です。大きな舞台上で発表するなど、日常とは違う一体感や達成感、緊張感を味わうことができます。そんな、子育てや勉強とは違う別世界の「プロ」との関係は、豊かな自然の中での体験に通じるのかなと思えます。

まちなかに出る

他にも、「子ども・子育てプラザ」や「市民交流センター」など、まちな

には子どもたちの居場所となる施設が点在しています。また、公園やちよつとした空き地、路地などが遊び場になったり、駄菓子屋やおもちや屋のようにお店がたまり場になったりします。以前リレーなびトークで取り上げた雑貨屋「ユニー」もまさに子どもたちの居場所。子どもたちが何かつくったり、おしゃべりしたり、けんかしたり、助けを求めたりできるポイントが、まちのいろいろなところに点在し、つながっていくことで、子どもたちの世界が広がっていくのだと思えます。そういえば似たような光景に、冒頭の地藏盆でいくつものお地藏さんを巡る子どもたちの姿を見て気づきました。いろいろな地藏居場所を探し回るときワクワクやドキドキは別世界の経験。また、「おおきくなったなあ」「でっかいほうのお菓子がほしい！」など、地域の大人たちとの他愛もない会話もあわさつて、地域の中での関係やいろいろな世代とのつながりができ、居場所につながっていくのではと感じました。

居場所の創造力

シンポジウムでは、地域でのいろんな取り組みとともに、子どもたちのもう一つの居場所として「プレーパーク」が提案されました。公園ではボール遊びや木登り、水や火をつかった遊びが禁止されていたりできなかったりするなど、自由な遊びがかなり制限されています。また施設などでは、屋内が中心で自然に触れる機会は多くありません。敷地を思いっきり活用し、遊びを次々と創造していくプレーパーク。それは、仲間と裏山や田んぼなどでそこにあるものを使って遊ぶ、集団即興的な遊びと同様です。

今回、子育て・子育てのいろいろな取り組みの話を見聞きし、社会的にも行政的にも子どもたちの居場所がじりじりと削られている気がしました。子どもたちが自分たちで考えつくり出していける、そんな居場所を地域で創造していく力をつけていけたら、子どもだけでなく大人ももっと楽しく豊かに暮らせるまちなかかもしれません。

【田岡秀明】最近「なびはどこでもらえますか？」の声をいただくことが多い。みなさんの声にお応えするには、しばし時間を。それまでは、ナイスのHPでお楽しみください。



※「子どもオーケストラ」は、プレーカープロジェクト実行委員会主催で実施されたアートプロジェクトの一環で、地域の子どもも大人も一緒に考えて創造する場を展開。西成区の子どもたちと、東北の被災地から大阪に避難している子どもたちとでつくる「集団即興オーケストラ」のためのワークショップなどを実施。



サウスオブミナミ

vol.06

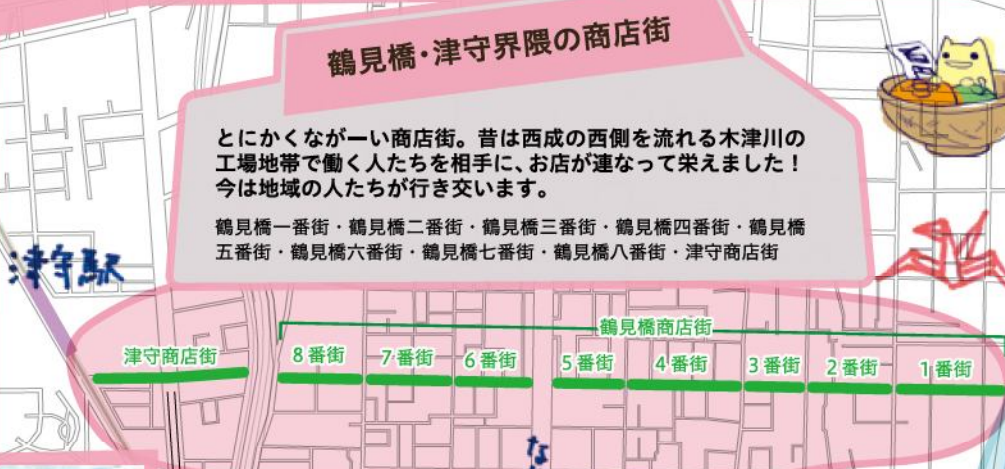
「暮らしのすぐそばに商店街」
西成区北部編

雨の日も、真夏の炎天下も大丈夫!とえば、アーケード。みんなの目を引くこだわりの看板、舗装、街灯。歩いて楽しいいろんなお店たち。そんな暮らしに密着した商店街を巡ります。
今回は、西成区の北側にある商店街を紹介!次回は西成区南部を見ていきます。

鶴見橋・津守界隈の商店街

とにかくながーい商店街。昔は西成の西側を流れる木津川の工場地帯で働く人たちを相手に、お店が連なって栄えました!今は地域の人たちが行き交います。

鶴見橋一番街・鶴見橋二番街・鶴見橋三番街・鶴見橋四番街・鶴見橋五番街・鶴見橋六番街・鶴見橋七番街・鶴見橋八番街・津守商店街



花園町界隈の商店街

イズミヤの本店がある花園町。その近くにはタケノコ型のアーケードの商店街や、おしゃれな街灯の商店街など、こだわりのデザインが特徴的!

サンスーク花園・花園北本通会・花園本通商店街



新今宮界隈の商店街

動物園をモチーフにした商店街入口の看板や、アート作品がぶら下がっているアーケードなど、見上げると楽しい商店街がいっぱい!

動物園前一番街・動物園前二番街・山王市場通商店街・新開筋商店街・新開筋中央商店街・新開筋西商店街・今池商店街・飛田本通親栄会・飛田本通商店街・萩之茶屋本通商店街



みんなも身近な商店街をいつもと違った目線で探検してみよう!



「西成ではたらくママたち」

プロフィール



篠森 弘子
男の子2人のお母さん。夢を諦めきかず、会社勤めを辞めて天神ノ森で念願のカフェをオープン。友達のお母さんのような頼れるオカシです。



熊谷 真由美
三人のお子さんのお母さん。身近にアートがあったらもっと豊かな気持ちになるという思いを胸に、大好きな作品たちをみなさんに伝えるお手伝いをしています。



い湯かげん

地域と労働現場に「三層のセーフティネット」を

「行政の福祉化」という理念があったから大阪府の総合評価競争入札は共感されてきたのだが、10年経って、自治体の中には「所在地が当該自治体内にある企業」に高い得点を与える等の「理念崩し」も散見されるようになり、理念を制度化する「公契約条例」が必要だと、ボクも最近思うようになった。

「公契約条例」というのは、自治体の公共調達戦略を条例化するもので、ボクは、清掃等の業務で障害者等働くことに困難を抱えた市民の就労支援の場を創る「中間労働市場」を提案し続けてきたので、条例化には元々賛成だ。ただ、建設労務等熟練を要する物件はともかく非熟練の

今回はホストの篠森さんと、天神ノ森にある「ギャラリーあしたの箱」へお邪魔してきました。ゲストは、ギャラリーオーナーの熊谷さん。現在、25歳の娘さんと21歳の息子さんがおられ、子育てはひと段落？されています。もともとは居住していた家を改装してギャラリーにしたという家族の思い出の場所で、子育てについてお話を伺いました。

篠森：私は上の子のときはすぐに職場復帰したので、0歳から保育園に入れました。でも、下の子は子育てをしたかったから、ずっと勤めていた仕事を辞めて、下の子が年少さんになった時にお店を開きました。

熊谷：うちの場合は、上の子は公園デビューもしてママらしいことをしたけど、下の子は1歳から保育園入れて、仕事しましたね。当時はおもちゃやアンティークの仕事をしていたから、イベント開催日は土日が多くて。どことも預かってくれないから、仕事してるところに連れて行ってました。

篠森：土日、預けられるところがないですもんね。
熊谷：早朝から夜遅くまで仕事があったから。イベントの時は、粗品渡したりとかお手伝いさせたりして。親以外の大人と関わる機会がある方がいいなって思ってたので、大変やったけど、連れて行って良かったです。

篠森：私も上の子が夏休みに店にご飯食べに来て、「『いらっしゃいませ』して」って、やらせてたんですよ。

熊谷：なかなか言えくない？
篠森：そうなんです。そういうことしたいけれど、なかなか言葉が出てこへん。下の子は4歳やからまだ難しいんですけど。

篠森：熊谷さんはうちの店に、息子さんと一緒に来てくれはったりしますね。

熊谷：でもうちは、子どもとは「干渉しあわない」関係なんです。言わなあかんこととか、したらあかんことは言うけど、人格的なところは否定せず、「そうなん。好きにしたら」って思う。

篠森：私も子どもはまだ小さいけど、あんまりいろいろ言わないタイプの「お母ちゃん」やから、「私ってちょっと冷たいのかな？」って思うところがある。

熊谷：私もすっごいクールってよく言われます。子どもが苦手やったんですよ。遠くから見てるだけでよくて(笑)

篠森：私も！でも、自分が子どもを産んでから、周りにも小さい子どもが増えてきて、かわいいな〜ってやっと思えるようになってきました。だから店に、お母さんが子連れできてくれるのはすごくうれしい！

熊谷：うちは作品保護のため、お子さんだけの入場はお断りしてるんですけど、基本的にはウェルカムですね。親子でいろんな作品を見てもらって、いつもと違う会話が弾んでくれたら嬉しいなって。なかなか子ども連れでこられへんからね、ギャラリーって。

篠森：こんな近くに、作品に触れ合える場所があるって、すごくいいと思うんですよ。

熊谷：あと近所に古本屋さんとか、パン屋さんができてくれたらいいよね。

篠森：うちも工事してるときに、前通る人から「パン屋さんですか？」って何回も聞かれました！


熊谷：この辺パン屋さんないもんね。

篠森：ぜひ、ご近所に素敵なパン屋さんお待ちしてます！

今回はホストを熊谷さんへバトンタッチ！

労働まで、地域最賃とは違うもう一つの賃金の下限設定を条例化することは、賃金が高くなる分「椅子（雇用）取り競争」が煽られ、障害者等の雇用を奪う「逆回りの排除」になってしまおうと慎重だった。しかし、ホームレスや母子家庭の母、若者等働くことに困難を抱えた市民の場合、「中間労働市場」に迎え入れても、地域最賃にへばりついたビルメンの賃金では実際の収入は生活保護水準を下回り、低賃金が原因でせっかくの「中間労働市場」とミスマッチしてしまうという現実には遭遇した。

そこで、「逆回りの排除」にならなくて、生活保護水準も下回らない賃金（労働単価）の積算について、「就労支援費込労働単価」という提案をしてきた。障害者なら「働くことのコーチ」、ホームレス等なら「住宅手当」、若者なら「働く意欲を喚起する小刻みな報酬システム」等が就労支援費の内訳で、それを発注者が予定価格に積算し、受注者がその配分を企画書に示し、総合評価入札で競うという主旨だ。これを公契約条例に書き込むとしたら、「市長は、工事又は製造の請負業務に従事する労働者以外の労働者の『標準的賃金及び処遇』を、生活保護水準を下回らない額として設定し、受注者はこれを遵守しなければならない」となるのだろうか。この条文と別掲の総合評価入札の条文が連動し、公共調達で社会的価値を追求するという基本条文で担保するという仕組みだ。



鎌奈イヌ代表取締役 富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「い湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

これが実現すると、自治体内には、「生活保護」と「地域最賃」と「就労支援費込労働単価」という「三層のセーフティネット」が補完しあい併存することになる。障害者でもない、働くことに困難を抱えるわけでもない一般の労働者には不公平感が残ると懸念されるが、就労支援等熟練度を積算することで賃金の上昇を担保することはできる。また、市民の公共サービスの負担が増えるのではと危惧されるが、就労支援や雇用対策が内製化されるわけだし、過度の価格競争を抑制することで原資も生まれ、市民負担も抑えられるはずだ。



【四井恵介】夢を持たせる就労支援やUターン、Uターンの脚光を浴びるのもよいけれど、「夢破れてUターン」というのを素直に受け入れていくコミュニティが今の日本にとって一番大事ではないかと考え始めています。



【高橋静香】今年のはじめて山王の地藏盆へ。7カ所回るといいよ〜と聞き、たくさん巡りました！まんまんちゃんしてあふればかりのお菓子を頂いて、大喜びの息子でした。



【飯田沙保里】リレーなびトークを担当して2回目。見本としたいママたちがたくさんいて、お話を聞くのが毎回来しめです！



枝葉末節

才蔵さん その3



hidarimaki こと佐々木です。立春から数えて二百十日とは、台風など自然災害に備えよという古人の知恵。今年は二百十日を前にあちこちで災厄が起き最悪です。

私はこの日、近世の橋本市が栄えた塩市や水運の歴史を確かめるため、南海高野線の「橋本駅」を降りた。市内の旧跡や神社を訪れながら高野街道を歩く。古くは京大阪と高野山を結ぶ街道として有名な高野街道は、市街から紀ノ川をまたぐ橋本橋を越え清水で国道370号と合流し、紀ノ川や南海電車の軌道に添いながら学文路に向かう。私は才蔵さんが眠る墓を訪ねたかったので、高野街道を「学文路駅方面に向かって歩いていく」といわれる橋本橋が架かるが、当時建設3年後には流失してしまっただけで、そのため東家と対岸の三軒茶屋に渡船場が作られた。宝暦2年に建立されたという大きな常夜灯が、双方の渡し口に残って

いて、私が作成した調査書に「東家常夜灯には「永代常夜灯弘法大師さま」と書かれている」と記されていた。街道には橋本市から高野町桜茶屋までの間に六体の地藏菩薩像が建つ。江戸後期、高野山参拝の旅人の安全を祈念して建立されたそうだが、地藏堂に入っていくおばあさんに聞く。「今から講があるので皆で寄り合っているの。ここは西行法師さんを祀っているの」と話してくれた。当時の記録では、私はそのうちの2体の地藏堂に参拝した記録が残る。「船越喜右衛門の碑」が福成就寺太子堂という寺の境内にあり、碑の土台が船の形をした顕彰碑で珍しい。喜右衛門は学文路の船頭で、嘉永5年の大洪水の時、孤立した避難民に舟を出して救出したという。功績により紀州藩から船越の姓を与えられた。紀ノ川の流域には水争いや、水に関わる信仰や伝説なども多くみられ、なによりも、名のない人たちの活躍が今も残されているのが大変に興味深い。街道の南は高野山系の山並みで、その中腹に学文路大師堂奥の院という大きな寺があり墓地があると聞く。南海電車「学文路駅」から



1キロほど手前の山道をたどる途中、村落のほすれに打放しでモダンな円形2階建ての建物が突然に現れた。その建物には「ヒロ画廊」と書かれていた。大阪の有名画廊で勤めていたオーナーの廣畑さんは、1999年自宅隣にギャラリーをオープンさせた。「私の自宅向かい側が大畑才蔵さんの末裔が住む家です。」私が河川流域への旅の理由を話すと、廣畑さんから予期せず才蔵さんの話が出た。そして、なぜこんな辺鄙な場所にギャラリーが?という私の疑問に、「地域の結束力が弱くなったのかもしれない。地域の私たちは和歌山ではなく圧倒的に大阪に勤務する。私は村の主体性を大事にしていきたいと感じ、美術を通して文化を発していくために、あえてこの場所に画廊を作った。自分自身、地元について知らない状態。才蔵さんの普請事業を思い、あらためて中飯降(なかいぶり)から小田井

あたりの地元の景色を見ると本当にきれいだと感じる。画廊経営についてはどうにか維持させる環境にあり、地元で本格的に活躍する作家や、外国の美術家を紹介している。いたずらに規模を大きくせず、身の丈に応じたサイズで維持できればと考える。人間文化という発想で人とつながりたい」と廣畑さん。廣畑さんと、終始もの静かな微笑で対応してくれた奥さんにお礼を言いつつ画廊を後にしたが、なるほど廣畑さんの画廊はひろがる、うなのだ。それにしても廣畑氏の自宅向かいが才蔵さんの生家だなんて私は、『河川環境調査書』の教員に「ヒロ画廊」を紀ノ川流域の資源として調査記録に残している。そのあと、私は当初の目的である才蔵さんのお墓探しを続けた。学文路大師堂奥の院の左のわき道を登っていくと左はみかん山、右側が墓地だった。その数多い大畑家の墓石の中から才蔵さんのお墓を探すのに苦労した。大仕事を遺した天才の墓としては、気の毒なほどに古く小さなお墓(写真)であった。それにしても、才蔵さんのお墓を探すと、この日いくつかの偶然を生み出してくれて、本当に有難く嬉しかった。



西成活動記

第六回「地藏盆」



まんまんちゃん

夏の終わり、路地や軒先にさわやかな彩りの提灯がたわわに吊り下げられます。そう、子どもが大好きな地藏盆。西成区太子にある円満会では、夕方になると子どもたちが集まりだし、近所の人たちが「まんまんちゃんしてな」と声をかけると、もつてきたお線香でお参りします。そして、手づくりのクジを引き、当たりが出ると大きなお菓子や、外れても小さなお菓子がもらえるので、子どもたちは大はしゃぎ。

来年は大きいお菓子が当たりますように!

文：平川隆啓 / 写真：高橋静香

ピズのつばやま



ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

- 「9月だって残暑のお見舞い」
- 朝の散歩で、
- 「今日も一日頑張るの?」
- 「お陽さんに尋ねたら」
- 「もちろん」
- とキラキラしたお目々で答えてくれた。
- 嬉しいやら困るやら。
- お陽さん、夏バテには気をつけてね。
- お昼休みに、
- 「雲の調子はいかがかしら?」
- 「お陽さんに尋ねたら」
- とフーフー呼吸で答えてくれた。
- 嬉しいやら心配やら。
- 風さん、ゲリラ豪雨にご注意を。
- 夜の散歩で、
- 「明日の天気はどうかしら?」
- 「お星さんに尋ねたら、」
- とピカピカ拍手で答えてくれた。
- 「明日も暑いよ」
- 嬉しいやらため息やら。
- 星さん、お陽さんにお手柔らかにって伝えてねワンワン!

赤井まゆみ

思ったら! にしなりカレンダー

9月2～28日

現代書家・アーティスト aki さんによる「墨でのびのび書くワークショップ」の成果作品展！
様々な障がいを持つ方々とケア施設のスタッフが
さんが力と心を合わせて制作された作品です。

「アウトサイダー書展」

日時：9月2日(月)～28日(土) 10:00 - 17:00
(日曜日・16日・23日休)
場所：galerie"見る倉庫"
西成区岸里東 1-5-25
tel：06-6656-1280
web：http://www.yourwing.org

9月21・22日

アーティストの山田巨と、一般公募による編集メンバーが、西成のまちに息づいている記憶や風景についての話を取材し、新聞を制作・発行していくプロジェクト。
随時、記者・編集メンバーも募集中！

「西成なるへそ新聞」

日時：9/21(土)13-18時・9/22(日)10-18時
他、随時開催
場所：kioku 手芸館「たんす」
西成区山王 1-11-5
http://breakerproject.net/project/yamada.php
※詳細は事務局まで
Breaker Project：西成区山王 1-5-31 新・福寿荘内
mail：info@breakerproject.net
tel：070-5046-8667

9月22日

Aダッシュでつながる！Aダッシュでつながる！
Aダッシュ手づくりの祭りを開催。
受講生・講師中心に模擬店、企画、ライブ、
フリマなどでみなさまをおもてなし！
「くらし応援室」も出店します！

「Aダッシュ祭」

日時：9月22日(日) 11:00 - 16:00
場所：A'ワーク創造館 大阪地域職業訓練センター
浪速区木津川 2-3-8
Aダッシュ祭り実行委員会事務局 (担当：田岡・梅山)
tel：06-6562-0410 fax：06-6562-1549
mail：office@adash.or.jp

9月14～29日

滋賀県の福祉施設やまなみ工房の作品展第二弾
が開催！今回は絵画と刺繍作品を展示。
とびきりゴキゲンなやまなみパワー再び！

「やまなみ GOOD TIMES ROLL ～ シェキナベイベ～」

日時：9月14日(土)～29日(日)
(会期中の水・木曜日は休廊)
13:00 - 19:00 (最終日 17:00 まで)
場所：ギャラリー あしたの箱
西成区岸里東 1-6-7
tel：06-6659-8892
web：http://www.ashitanohako.com

あとがき

先日、西成活動記でも取り上げた地藏盆に縁
あって昨年に引き続きおじゃましてきました。お
手伝いをちょこちょこしつつ、最後は近くのカ
ラージで宴会にもよばれて、まあかなり呑んでき
ました。そこには、近所の人はもちろん、地藏盆
に合わせて久しぶりに地元に立ち寄った親子や、
最近生まれたあかちゃんも加わりながら、楽しく
交流してきました。

(平川)

なび9月号(vol.79)

発行日：2013年9月10日(創刊日：2007年1月1日)

発行：株式会社ナイス

発行人：代表取締役 富田一幸

印刷：有限会社前山企広

住所：大阪市西成区長橋3-6-33 電話：06-6563-1156

E-mail：info@nice.ne.jp url：http://www.nice.ne.jp/

編集長：佐々木敬明

編集：田岡秀朋、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里

イラスト：hidarimaki

デザイン・表紙写真撮影：高橋静香

(表紙の写真は「ギャラリー あしたの箱」で撮影しました。)